

日本語の助詞「ネ」と タイ語の助詞“NA”の伝達機能

—タイ人学習者の日本語の談話における使用傾向

アサダーユット チューシー

◆要旨

本 研究は、タイ人学習者が助詞「ネ」を使用する際、どのような母語干渉が現れるのかを明らかにするために、映画シナリオの談話分析及びアンケート調査を通して、日本語の助詞「ネ」とタイ語の助詞“NA”の伝達機能及び出現位置を対照分析する。本稿の分析の結果、①助詞「ネ」の「②同意要求」、「③確認要求」、「⑤同意表示」の3種の機能は、助詞“NA”にもあるため、タイ人学習者は助詞「ネ」を助詞“NA”と同様に使用する、②助詞「ネ」にはない、助詞“NA”の「⑧言い直し要求」、「⑨許可要求」は、助詞「ネ」の誤用が生じやすい、③助詞“NA”にはない助詞「ネ」の「⑥自己確認表示」は、タイ語の相当表現がないため、理解しにくい、④出現位置に関しては、助詞“NA”の出現位置に限られるため、「ヲ」格、原因・理由の連用節、連体句・連体節に助詞「ネ」をつけて用いることが困難であるという傾向が明らかになった。

◆キーワード

助詞「ネ」、タイ語の助詞“NA”、伝達機能、出現位置、母語干渉

◆ABSTRACT

This is a contrastive study of communicative functions and positions between Japanese particle *NE* and Thai particle *NA* to explain the interferences from mother tongue in Thai learners when using Japanese particle *NE*. From the results of movie scenarios analysis and questionnaires, I concluded that :- 1. Thai learners use *NE* correctly in 3 functions, “Agreement Demanding”, “Confirmation Demanding” and “Agreement Indicating” according to its similarities to Thai particle *NA*, 2. Thai learners misuse 2 functions, “Repetition Demanding”, “Permission Demanding” which exist only in *NA*, 3. *NE*’s “Self-confirmation Indicating” is difficult for Thai learners to understand because this function is available only in *NE*, 4. due to *NA*’s positional restriction, Thai learners do not use *NE* after particle *WO*, subordinate clause about cause and reason, and modifiers.

◆KEY WORDS

particle *NE*, Thai particle *NA*, communicative functions, positions, interferences from mother tongue

Communicative Functions of Japanese Particle *NE* and Thai Particle *NA*
Interferences in Thai-speaking learners’
Japanese usage trends
ASADAYUTH CHUSRI

1 はじめに

従来、日本語教育においては、助詞「ネ」が重要な指導項目となっているものの、その指導項目には、学習者の母語干渉を考慮せず、解説しているため、学習者にとって習得しにくいと考えられる。本研究は、タイ人日本語学習者が助詞「ネ」の習得の際に、助詞「ネ」と似たタイ語の“*ne*”（以下、「助詞“NA”」^[註1]と記す）によりどのような母語干渉を受けるかを明らかにするため、助詞「ネ」と助詞“NA”の「伝達機能」と出現位置を対照分析する。なお、本稿の「伝達機能」^[註2]とは、コミュニケーションにおける話し手の聞き手に対する「働きかけ」を基準とした機能である。

本稿では、チューシー（2009）の、日本語の映画のシナリオ5編における助詞「ネ」（436例）の伝達機能の分析結果と比較するために、タイ語の映画のシナリオ5編における助詞“NA”を分析資料とする。

本稿で用いるタイ語資料の日本語訳は著者によるものであり、タイ語の国際音声記号の表記は、Naaksakul（1978）を一部変更したものである^[註3]。

2 助詞「ネ」と助詞“NA”の先行研究

チューシー（2008,2009）は、大曾（1986）、田窪・金水（1998）、伊豆原（1992）、野田（2002）等の先行研究を踏まえて、助詞「ネ」の伝達機能を、「①注視要求」、「②同意要求」^[註4]、「③確認要求」、「④注視表示」、「⑤同意表示」、「⑥自己確認表示」の6種に分類し、助詞「ネ」が出現した文節の種類によって、「①注視要求」を、「完結情報注視要求」、「素材注視要求」、「展開注視要求」、「時間保持注視要求」の4類に下位分類した。

タイ語の助詞“NA”の先行研究は、Bhamoraput（1972）、Cooke（1989）、Booppanimit（1996）等があり、助詞“NA”の機能について、「話し手が聞き手に対して何かの反応を求めているまたは望んでいることを表すもの」（Cooke 1989）や「言語行動の面では聞き手に対して話し手の発言に関心を持つように求める機能」（Booppanimit 1996）と指摘している。これらは、助詞“NA”の主な

機能のみで、コミュニケーションの観点による機能については言及していない。

日本語の「ネ」とタイ語の“NA”を対照分析したセーントーンズック（1991）は、コミュニケーションの観点、表現的効果の観点から様々な用法を述べているが、観点が一致しない点、終助詞のみを対象としている点が不十分であり、さらに、「自己確認表示」などの助詞「ネ」の機能上の分類がまだ精確に論じられていなかった時期でもあり、タイ人に対する日本語教育においては、なお検討すべき問題点が残されている。

3 分析資料

本研究は、表1に示す、チューシー（2008,2009）の助詞「ネ」の「伝達機能」の分類に基づき、タイ語の助詞“NA”を分類して、それぞれの伝達機能と比較した。チューシー（2009）の日本語の映画のシナリオにおける分析結果に照らしながら、タイ語の映画のシナリオ5編における助詞“NA”（全274例）を分析資料とする。

また、助詞「ネ」と“NA”の文中での出現位置に関するアンケート調査を実施した。助詞「ネ」のアンケート調査の被験者数は日本語母語話者112名、タイ国内のタイ人日本語学習者計76名（旧日本語能力試験1級15名、2級31名、3級30名）、助詞“NA”のアンケート調査の被験者数は、タイ語母語話者計118名である。

以上の分析結果に基づき、タイ人日本語学習者（3級合格者）の日本語の雑談の談話資料について考察した。

4 伝達機能の相違による日本語の助詞「ネ」の誤用の分析

4.1 日本語の助詞「ネ」とタイ語の助詞“NA”の伝達機能の相違

タイ語の映画のシナリオを分析した結果、助詞“NA”の伝達機能は、「①注視要求」、「②同意要求」、「③確認要求」、「⑤同意表示」、「⑦自己注視要求」、「⑧言い直し要求」、「⑨許可要求」、「⑩共同行為要求」の8種類に分類することが

表1 助詞「ネ」の「伝達機能」の分類

機能	意味
①注視要求	情報を所有する自分(A)が、相手(B)に対して自分と同じ情報を共有することを求める機能 (1) B:でも、Cさん、やっていけるの? A:大丈夫。このフランチャイズはね、儲かってんの。勝算があるからね。(『のど自慢』)
②同意要求	自分(A)と相手(B)が同じ情報を共有して、それに対する相手の賛意を求める機能 (2) (AとBはのど自慢で歌の審査をしている。) A:おタマちゃん、鐘二つです。ね。 B:です。ね。(『のど自慢』)
③確認要求	自分(A)よりも多くの情報を所有する相手(B)に情報を求める機能 (3) (イルカの調教師Bが笛の合図でイルカを跳ばせた。) A:(Bに)今のでイルカが跳ぶんです。ね。(『ウォーター』)
④注視表示	相手(B)から自分(A)にとって未知の情報を受け取ったり、疑問を示されたりした際に、自分が情報を考え始めたことを示す機能 (4) B:どうすか、シンクロのできは。 A:さあ。どうなんでしょう。ね。分かりません。(『ウォーター』)
⑤同意表示	自分(A)と同じ情報を共有する相手(B)に対して賛意を示す機能 (5) B:おタマちゃん、鐘二つです。ね。 A:です。ね。(『のど自慢』)
⑥自己確認表示	自分(A)が、情報検索や計算等の様々な方法で未知の情報を得たということを相手(B)に示す機能 (6) B:そろそろおしまいですか。ね。 A:(スクリプトを見て)あと2,3人です。ね。(『のど自慢』)

できた。表2に示すように、助詞「ネ」と“NA”の伝達機能に共通するものは、「①注視要求」、「②同意要求」、「③確認要求」、「⑤同意表示」の4種であるが、助詞“NA”の「①注視要求」の使用領域は助詞「ネ」より広い。助詞「ネ」のみの機能は、「④注視表示」と「⑥自己確認表示」の2種で、助詞“NA”のみの伝達機能は、「⑦自己注視要求」、「⑧言い直し要求」、「⑨許可要求」、「⑩共同行為要求」の4種である。

次に、助詞“NA”の各機能を説明する。

①「注視要求」

聞き手に対して話し手と同じ情報を共有することを求める「注視要求」の機能は、助詞「ネ」と同様に、助詞“NA”にもある。例(7)では、助詞“NA”

表2 助詞「ネ」と“NA”の伝達機能の比較

伝達機能	「ネ」	“NA”	伝達機能	「ネ」	“NA”
①注視要求	○	◎	⑥自己確認表示	○	×
②同意要求	○	○	⑦自己注視要求	×	○
③確認要求	○	○	⑧言い直し要求	×	○
④注視表示	○	×	⑨許可要求	×	○
⑤同意表示	○	○	⑩共同行為要求	×	○

注:○は機能がある。◎は○より機能の領域が広い。△は限られた用例のみある。×は機能がないことを意味する。

は、依頼の発話に出現しており、助詞「ネ」に置き換えられる。

(7) (ワウの母はミシンの店でミシンを見ている)

- 店主 : อ้าวว่ายังไงครับ ตัดสินใจได้หรือยัง เห็นมาตุต้งหลายหนแล้ว
á:w wá: yaŋŋaj khráp. tàtsíncaj dáj rú:jaŋ. hèn ma: du: tǎŋ láj hòn lé:w.
どうでしたか。もう決めた? 何度も見に来てたよだね。
- ワウの母 : ชั่งก่อนนะจ๊ะ ขอเวลาอีกซักหน่อยนะ
jaŋ kò:n ná cá. khǒ: we:la: i:k sák nõj [NA].
まだなの。もう少し考えさせてね。
- 店主 : ครับ
khráp.
ええ。(『Pukpui』)

しかし、助詞“NA”は、警告や新情報の強制的な受容を求める場合にも使用できるのに対して、助詞「ネ」は使用できない。この場合は「ヨ」を使用する。

(8)

- チチャー : เธอชื่ออะไรล่ะ พ่อไข่ต้ม
thə: chú: araj lá. phó: khàjtóm.
あなたの名前は何。ゆで卵君。

2 ワウ : เสนา
sě:na:
セナー。

3 チチャー : ชื่นชื่อชานะ
chán chū: chícha: [NA].
わたしはチチャーよ。 (『Pukpui』)

タイ語の場合は、イントネーションにより、聞き手への働きかけの「積極性」の度合いが異なるが、日本語の「ネ」は、「ヨ」よりも「積極性」が低く、警告や即座に行為することを要求する際などのように積極性が必要な場合には、使用できない。

トピックを表す名詞句に付く“NA”は、間投助詞「ネ」と同様に、話し手は聞き手に対するトピックへの「注視要求」をして、話を続けることができる。

(9)

1 ワウの祖父 : สมัยสาว ๆ อยู่นะ ยายสวยที่สุดในจังหวัด กว่าจะมีได้ตาลงหนูแทบตาย
samāj sǎ:w sǎ:w a [NA]ja:j sǎj thi: sùt naj caŋwát. kwà: ca ci:p dǎj
lonthun thê:p ta:j.
若い頃はね、婆ちゃんは県の中で一番美しかったの。付き合えるまで、
爺ちゃんは必死にがんばってた。 (『Pukpui』)

② 「同意要求」

助詞“NA”にも、「同意要求」の機能がある。例(10)は「先生に論文の話聞きに行った方がいい」ということがプリムと友人の共有知識で、提案に対する同意を友人に求めている場合である。

(10)

1 プリム : ไปฟังอาจารย์คุยเรื่องฮิสทีลกันดีกว่า นะ
paj faŋ a:ca:n khuj ruəŋ thi:sit kan di: kwà:. [NA].
先生に論文の話聞きに行った方がいい。ね。 (『O-Negative』)

感動詞“NA”は感動詞の「ネ」と同様に、「同意要求」の機能を有する。

③ 「確認要求」

助詞“NA”にも「確認要求」の機能がある^[註5]。例(11)は、助詞“NA”の「確認要求」の例である。日本語に訳すと「ネ」か「ヨネ」になる。

(11)

1 スイ : ไม่เป็นไร ไม่ต้องคิดมาก ไหมกรธ
mājpenraj. māj tōŋ khít mâ:k. māj krò:t.
大丈夫。心配しないで。怒っていない。
2 ティム : ไหมกรธเราแน่นะ
māj krò:t rau nê: [NA].
私のこと、本当に怒ってないよね。
3 スイ : ไหมกรธ
māj krò:t.
怒っていない。 (『Girlfriend』)

軽い確認を要求する場合は、積極性が低いため、助詞「ネ」も助詞“NA”も使用できるが、積極性が高い確認要求には、日本語では「ヨネ」、「デショウ」を使用し、タイ語では“ใช่ไหม” [chài-máj] を使用する^[註6]。

⑤ 「同意表示」

「同意表示」は、助詞“NA”の唯一の表示系の伝達機能である。例(12)の「同意表示」の“NA”は、賛意を表す“ก็จริง” [kǒ:cij] と共起する。

(12)

1 บี : เพื่อนบอกว่าเขาแก้ปวดกินมากก็ไม่ค่อยดี กินแล้วมันต้องกินไปตลอด
phǔan bò:k wá: ja: kǎ: pùat kin mâ:k kô māj khôj di:. kin lé:w man tōŋ
kin paj talò:t.
友達は鎮痛剤を飲みすぎるとあまりよくないって。1回飲んだらずっと飲ま

ないといけない。

2 父 : กิ่งจิงนง

kô ciŋ [NA].

確かにそうだね。

(『Girlfriend』)

⑦ 「自己注視要求」

助詞“NA”または変異形の“な” [ná:] が独り言に使用された場合、話し手が自分自身に考えることを促していると考えられるため、「⑦自己注視要求」になる。日本語では、助詞「ナ」または「カナ」に相当する^[註7]。例(13)は、フンがおしゃれをして友達と会う場面である。「そうだな」と独り言を言って、なぜ自分がおしゃれをしているのか考えるそぶりをして、意図的に自分の誕生日を友達に思い出させようとしている。

(13)

1 チョンプー : โฉโท ผุ่นเนียบ งามที่สุดในประเทศโลกที่สามเลยนะผุ่น

ô:hô: fùn nía. ɲa:m thi: sùt naj prathê:t lô:k thi: sã:m lə:j ná fùn.

わあ、フン。第三世界で一番きれいだわ。

2 チョンプー : ฉันนี่มีอะไรหรือจ๊ะ

wanní: mi: araj rə: cá.

今日はどうしたの？

3 フン : นั่นสิน้า

nàn si [NA].

そうだな。

(『O-Negative』)

⑧ 「言い直し要求」

タイ語の助詞“NA”の「言い直し要求」の機能は、日本語の「って」、「っけ」に相当する。この場合の“NA”は疑問詞と用いることが多い。

(14) (トゥムがティムと話そうとしているが、ティムはヘッドホンを付けているので、トゥムの発言が聞こえなかった)

1 トゥム : มานานซี่ซัง

ma: na:n rú:jan.

しばらく前に着いたの？

2 ティム : อะไรวะ

araj [NA].

何だって？

(トゥムがティムの耳からヘッドホンを外す)

3 トゥム : มานานซี่ซัง

ma: na:n rú:jan.

しばらく前に着いたの？

(『Girlfriend』)

⑨ 「許可要求」

タイ語は、“ได้ไหม” [dáj-máj] という疑問の終助詞で許可を求めるが、例(15)は、助詞“NA”を「許可要求」に用いている。例(15)の[khǒ:] + “NA”の文型は、日本語の「～テモイイカ」または「～サセテモラエナイカ」に相当する。

(15)

1 マーリー : มาสิก็จะไปตลาด ขอไปด้วยคนนะ

ma:li: kô ca paj talà:t. khǒ: paj dùaj khon [NA].

マーリーも市場へ行く。一緒に行ってもいい(か)。

2 タム : ก็ได้

kô dà:j

いいよ。

(『SaphaanRak』)

“ขอไปด้วยคนนะ”(一緒に行ってもいい?)という表現は直訳すると「一緒に行くね」となるが、「行くね」の助詞「ネ」は、話し手の意志への注視を要求しているため、聞き手に決定権を与えない。それに対して、この文の助詞“NA”は、聞き手に行動の決定権を与えるため、「注視要求」から派生した「許可要求」という新しい機能になるのである。

⑩「共同行為要求」

タイ語は、終助詞の“เอย” [thə] を「共同行為要求」として用いているが、例 (16) に示すように、“NA” もその機能を有する。例 (16) の [jù:] + “NA” は、日本語の「住もうね」に相当する。この場合、助詞“NA” は日本語の動詞の意向形と同様に働き、「同意要求」の機能から派生して「共同行為要求」という新しい機能になる。

(16)

- 1 プリムの叔母 : นำเองก็อยู่ไกล แล้วตอนนี้ก็ไม่มีใครอยู่กรุงเทพฯ แล้วด้วย
ná: e:ŋ kò jù: klaj. lé:w tɔ:nní: kò mǎj mi: khraj jù: thì: krunthè:p
lé:w dǔaj.
私の家も遠いし、今バンコクにいる人もいないし。
- 2 フン : ปริมไปอยู่กับพี่นนะ นะ
prim paj jù: kàp fùn [NA]. ná.
プリムはフンと一緒に住もうね。ね。 (『O-Negative』)

4.2 タイ人学習者の誤用の傾向

4.1 の伝達機能の対照に基づき、タイ人日本語学習者の助詞「ネ」の誤用例を分析した結果、以下のような使用傾向と問題が見られた。

- a. タイ人学習者は、助詞“NA”の「①注視要求」の機能の領域が広いため、日本語の「注視要求」を表す際に、助詞「ネ」と「ヨ」の使い分けについて頭を悩ませることが多い。また、初級段階で、助詞「ヨ」が「強調」の用法として指導されるため、助詞「ネ」を「①注視要求」に使うことが理解できない。
- b. 中級段階のタイ人学習者の雑談の録音データに、例 (17) の T13 のような誤用例が見られた。T13 の「何ですね」は、「⑧言い直し要求」の“NA”と同じように「ネ」を使ってしまったものである。「何でしたっけ」という言い方をまだ知らないため、タイ語の助詞“NA”と似ている機能を持

つ助詞「ネ」を中間言語として表出したと考えられる。

(17) T14 ああ。日本語を勉強した後で、どう、なに、何を思う… (中略)

T13 大丈夫。えーと、えー、何ですね↑。うーん。

T14 あなたは大学を卒業した後で、何をしたいと思っていますか。

c. 「許可要求」の発話に「ネ」を用いた誤用がある。

(18) お腹空いた。あそこのパンを食べてもいいですね。 (作例)

多くのタイ人学習者が、例 (18) の「てもいいですね」を「許可要求」として使用しているのは、助詞“NA”にそのような「⑨許可要求」の機能があるためではないかと考えられる。しかし、このような「てもいいですね」の「ネ」は、「⑨許可要求」ではなく、「③確認要求」になるので、若干意味が異なる。

d. 日本語の助詞「ネ」のみにある「④注視表示」の機能は、「そうですね」や「なるほどね」等の慣用表現が初級教科書に出ているが、「ネ」を付加する理由の解説がないため、慣用表現以外は、タイ人学習者には理解できない。

e. 日本語の助詞「ネ」のみにある「⑥自己確認表示」は、助詞“NA”または他の助詞にない機能であり、教科書の文法解説にも記されていないため、タイ人学習者には習得しにくい。この機能の助詞「ネ」は特に付けなくても文の全体的な意味が変わらないため、タイ人学習者は助詞「ネ」の使用を回避し、また、日本語母語話者が使用しても機能が分からないという傾向がある。

5 出現位置の相違によるタイ人学習者の助詞「ネ」の誤用の分析

5.1 日本語の助詞「ネ」とタイ語の助詞“NA”の出現位置の相違

助詞“NA”にも、終助詞(文末)、間投助詞(文節末)、感動詞(単独形)がある。助詞“NA”は、例 (19) のように、ポーズを置かず連続して発話でき、例 (20) のように、呼びかけの名詞を挟むことができる。

(19)

1 プーン : ก็ คิดว่าให้ภัยเพื่อนละกันนะ เพื่อนนะ น้า นะนะนะนะนะนะ

kô khít wá: háj aphaj phúan lá kan ná. phúan nâ. ná. [NA][NA][NA]
[NA][NA].

友達を許すと思ってくれ。友達なんだから。ね。(『O-Negative』)

(20)

1 イウ : แม่ แม่จ๋า ช่วยอ้ววะนะแม่

mé: mé: cá: chùaj iw dùaj [NA] mé:[NA]

ママ。ママ。イウを助けて(『SaphaanRak』)

間投助詞の場合は、ほとんどが未完成の情報と共に起して、その情報に注視を求める機能になるため、機能上は、日タイ両語の相違点はあまりないといえる。しかし、間投助詞の出現位置は様々なので、例(21)のような質問文に間投助詞「ネ」が出現しにくいかどうか^[註8]、例(22)^[註9]のように、間投助詞が動詞と目的語の間(日本語の「ヲ」の後に相当する位置)に出現できるかなどの課題を検証するための回答項目を設けて、アンケート調査を実施した。

(21) あなたはね、行きますか。

(22) ①ก่อนไปดู ②คาบูกิ ③ไม่ต้องศึกษา ④นะครับ ⑤วัฒนธรรมญี่ปุ่น ⑥ก่อน ⑦ก็ได้ใช้ไหม

①kô:n paj du: ②kha:bu:kì ③mâj tǎj sùksá: ④[NA] khráp ⑤wátthanátham jì:pùn

⑥kô:n ⑦kô:dâ:j chàj-mâj

②歌舞伎を①見に行く前に、⑤日本文化を④ですね③勉強して⑥おおなく⑦でもいいんですか。

アンケート調査では、助詞「ネ」と“NA”の出現位置の適切さについて、「○」(適切)、「×」(不適切)、「△」(よく分からない)という3種の評価をしてもらい、不適切さの「加重平均率」^[註10]を算出した。数値が高いほどその文の助詞の出現位置が不適切だということになる。以下、タイ人の加重平均率を“WAT”、日本人の加重平均率を“WAJ”と記す。

日本語母語話者による間投助詞「ネ」のアンケート調査では、例(23)、(24)、

(25)のように、質問文に出現する間投助詞「ネ」は不適切だと見なされる傾向があるが、文末にある述語との距離^[註11]が遠ければ遠いほど適切だと見なされやすくなる。それは、述語からの距離が遠いと、文末が質問文になるか否かがまだ予測しにくいからであろう。

(23) A. 「蝶々夫人」を見る前にね、日本文化を知らなくてもいいですか?

(WAJ: 49.6%)

B. 「蝶々夫人」を見る前に日本文化をね、知らなくてもいいですか?

(WAJ: 59.0%)

(24) A. 青パイヤをね、料理に使う地方もあるよね?

(WAJ: 33.9%)

B. 青パイヤを、料理に使う地方もね、あるよね?

(WAJ: 56.7%)

(25) A. メドゥッサをね、倒した勇者の名前はアキレスでしたっけ。(WAJ: 47.3%)

B. メドゥッサを倒した勇者の名前はね、アキレスでしたっけ。(WAJ: 55.8%)

タイ語母語話者への間投助詞“NA”のアンケート調査では、算出したWATから、タイ語の助詞“NA”は、例(26)のように主題に後続することができる(WAT: 22.8%)点は助詞「ネ」と同様だが、例(27)の原因・理由の連用節(「カラ」、「ノデ」、「シ」に後続する場合)(WAT: 77.4%)や、例(28)の連体句・連体節の位置に付加する場合(WAT: 77.8%)には用いられず、助詞「ネ」とは違って、種々の文節に後続できないことが明らかになった。

(26) ①หนังสือเล่มนี้นะ ②ไม่ค่อยहनความขึ้น ③ไม่ควรเอาออกไปนอกห้องนี้

①nǎngsù: lêm ní: [NA] ②mâj khǎj thon khwa:m chù:n ③mâj khuan au ò:k paj nô:k hǎj ní:

①この本はね②湿気にあまり強くない。③この部屋から持ち出すべきではない。

(27) ①ผมอยากไปอยู่ต่างประเทศ ②แต่ไม่อยากไปอยู่อเมริกา ③เพราะที่นั่นไม่น่าอยู่นะครับ

①phǒm jà:k paj jù: tà:n prathét, ②tè: mâj jà:k paj jù: ame:rika:, ③phrǎwthi: nán mâj nâ: jù: [NA-KHRAP].

①僕は海外に住みたいですが、③そこ(アメリカ)は住み心地がよくないですね、②アメリカには住みたくない。

- (28) ①ชื่ออักษร ② นกขรรค์ ③ ที่ฆ่าเมดูซ่า ④ ไซโคลลิสสิเบล่าครับ
 ①chú: nákróp ②[NA-KHRAP], ③thí: khà: me:du:sà:, ④chàj akhilít rú plà:w khráp.
 ③メドゥッサを殺した②です、①勇者の名前は、④アキレスでしたっけ。

例(22)の動詞(勉強する)と目的語(日本文化)の間に“NA”を入れることができるのかという検証について、WATは92.2%となり、日本語の「ヲネ」のようなものはタイ語母語話者にとって、使用しにくいという結果が明らかになった。

また、助詞「ネ」と同様に、例(29)のような質問文に出現できるか否かを調べた結果、助詞“NA”にも質問文に出現しにくい傾向が見られた。

- (29) A. ①ก่อนที่จะผัดมะระ ②ถ้าไม่ใส่เต้าหู้มะระ ③ใส่ขอสปรงอันนี้อ่างเดียว ④ก็ได้เหาะคะ
 (WAT : 71.1%)
 ①kó:n thí: ca phàt mará?, ②thá: màj sàj tàuhú: [NA-KHA], ③sàj só:t pruj anní: jà:ŋdiaw, ④kô dâj rò: khá
 ①ゴーヤーを炒める前に、②豆腐を入れないです、③このソースだけでも、④いいですか。
 B. ①ก่อนที่จะผัดมะระ ②ถ้าไม่ใส่เต้าหู้ ③ใส่ขอสปรงอันนี้อ่างเดียวมะระคะ ④ก็ได้เหาะคะ
 (WAT : 85.3%)
 ①kó:n thí: ca phàt mará?, ②thá: màj sàj tàuhú:, ③sàj só:t pruj anní: jà:ŋdiaw [NA-KHA], ④kô dâj rò: khá
 ①ゴーヤーを炒める前に、②豆腐を入れないで、③このソースだけを入れても、④いいですか。

例(29)のAとBのWATの比較から、タイ語の助詞“NA”にも質問文における述語との距離の使用条件があると考えられる。

5.2 タイ人学習者の助詞「ネ」の出現位置に関する使用傾向

タイ人学習者の間投助詞「ネ」のアンケート調査の結果では、間投助詞「ネ」

の出現位置について、一定の制約の傾向が見られた。

- (30) A. この本はね、湿気に弱いから、外に持っていかないで。
 B. この本は湿気に弱いからね、外に持っていかないで。

例(30)のAの「ネ」は主題に後続し、Bは原因・理由の連用節に後続するものである。母語話者による調査結果では、AのWAJは8.9%、BのWAJは17.4%であるが、タイ人学習者による調査結果では、AのWATは14.9%、BのWATは33.8%になる。さらに、学習者の日本語能力別で考察すると、図1の棒グラフのように、学習段階が進むほど「ハネ」を適切と判断する傾向があるが、「カラネ」にはそのような傾向はないことが分かった。

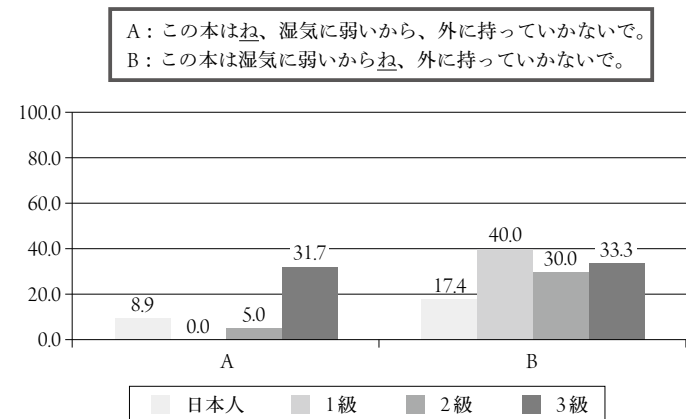


図1 アンケート例(30)の調査結果

1級合格者が学習経験が多いにもかかわらず「カラネ」の使用を適切だと判断しないのは、タイ語の助詞“NA”が原因・理由の連用節(例(27))に後続しにくいことと関係があるのではないか。つまり、母語干渉による違和感がまだあるのではないかと考えられる。

例(25)と同じ項目に対する回答では、日本語母語話者とは逆に、学習者が

助詞「ヲ」との共起に抵抗感を持つ傾向が見られた。

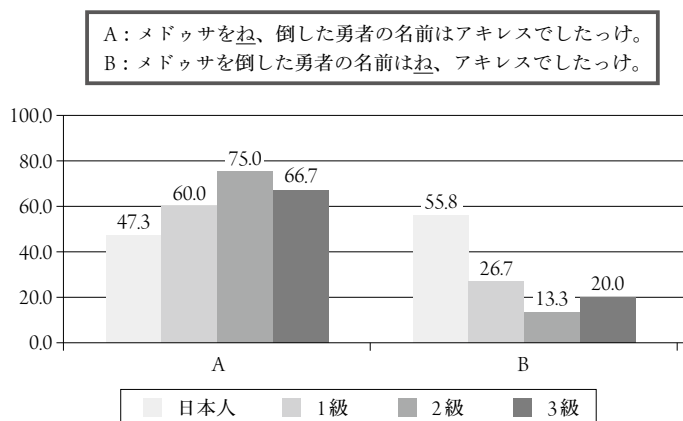


図2 アンケート例 (25) の調査結果

図2から、母語話者は、Bの方がやや不適切だと判断する傾向があるのに対して、タイ人学習者は、Aの方が不適切だと判断する傾向が明確に出ている。例 (28) のように、タイ語の助詞“NA”にも質問文における述語との距離の条件があることから考えると、最も学習経験がある1級合格者にも母語話者と逆の傾向があるのは、母語干渉が原因であろう。例 (22) のように、タイ語の助詞“NA”は動詞と目的語の間に出現できないため、「ネ」も“NA”の場合と同様に使用できないだろうという学習者の判断に起因するのではないかと考えられる。

以上のことから、タイ人学習者は、①連体句・連体節 (例 (28))、②理由・原因の連用節 (例 (30))、③「ヲ」 (例 (22)、(25)) に間投助詞「ネ」を使用しにくいことが明らかになった。タイ人学習者を指導する際には、間投助詞「ネ」を効果的に使用できるようにするために、タイ語の間投助詞“NA”とは違い、日本語の助詞「ネ」は①、②、③の位置に使用することができるという説明を加える必要がある。

また、チューシー (2008) による助詞「ネ」の「①注視要求」の下位分類^[注12]

に基づいて考えると、タイ人学習者が連体句・連体節の後に助詞「ネ」を使用しないのは、聞き手に文の成分や話の展開に注視させるように使用することはできるが、例 (31) のように間を持たせるために助詞「ネ」を使用することが困難であるためと考えられる。

(31) リエちゃんというね、おっとりした子がいたの。 (『おもひで』)

このように、伝達機能と出現位置の関係や「時間保持注視要求」の機能を明確に指導する必要もあるであろう。

6 おわりに

日本語の助詞「ネ」とタイ語の助詞“NA”の伝達機能を対照分析した結果、以下の点が明らかになった。

- [1] 初級段階で提示される助詞「ネ」の「②同意要求」、「③確認要求」、「⑤同意表示」の3種の機能は助詞“NA”にもあるため、タイ人学習者にとって学習しやすいが、3種以外の機能についても助詞「ネ」が助詞“NA”に相当するという誤解が生じやすい。
- [2] 「①注視要求」の機能も両語の助詞にあるが、タイ語の助詞“NA”には警告や新情報の受容の強制などの強調用法もあるため、助詞「ネ」と助詞「ヨ」の使い分けの問題が生じ、タイ人学習者が、教科書の例文以外の文で「注視要求」の助詞「ネ」の使用を回避する傾向がある。
- [3] 助詞「ネ」にはない助詞“NA”の伝達機能のうち、「⑧言い直し要求」、「⑨許可要求」の2種の機能は、タイ人学習者の助詞「ネ」の誤用が生じやすい。
- [4] 助詞“NA”にはない助詞「ネ」の機能の「⑥自己確認表示」は、タイ語には相当する表現がないため、タイ人学習者にとっては理解しにくい。
- [5] タイ語の助詞“NA”は、助詞「ネ」のように種々の文節に後続できないため、タイ人学習者の間投助詞「ネ」の出現位置が限られる。特に、

連体句・連体節、原因・理由の連用節、「ヲ」の補語句に助詞「ネ」をつけることは、タイ人学習者にとって困難である。

- [6] タイ人学習者は、助詞“NA”にない「時間保持」のために注視を要求する機能の助詞「ネ」を使用できない可能性があるため、フィルターと同様に、連体句・連体節などに助詞「ネ」をつけて、時間保持をする機能も指導する必要がある。

本稿では、助詞「ネ」と“NA”の伝達機能及び出現位置を比較し、タイ人日本語学習者の、母語干渉による助詞「ネ」の誤用の要因を分析したが、性差や年齢差による相違点も考えられるため、今後の課題としたい。

〈チューラーロンコーン大学〉

〈謝辞〉

本稿執筆に際し、貴重なご助言を賜った主指導の佐久間まゆみ教授、ご助言をいただいた早稲田大学大学院生の田中啓行氏に心より感謝申し上げます。第2回日本語／日本語教育研究会において会場の皆様から有益なご意見をいただいたことにも感謝申し上げます。

注

- [注1] …… 本稿では日本語の終助詞、間投助詞の「ネ」、タイ語の Final Particle の“NA”を、助詞という共通した用語で規定しておくことにする。本稿の助詞“NA”は、“นะ” (ná) のみならず、“นี่” (nái)、 “เนอ” (nǎ)、 “เงอ” (nǎ) の変異形も含めるものである。また、男性語の “นะครั้บ” (NA-KHRAP) と女性語の “นะคั้บ” (NA-KHA) は間投助詞“NA”の丁寧体とされ、日本語の「ですね」に相当する。
- [注2] …… 「伝達機能」は、ザトラウスキー (1993) 等の先行研究における発話全体の表現を分析した「発話機能」とは異なり、発話の一部の助詞「ネ」だけを分析している。助詞「ネ」の「伝達機能」には、発話全体の「発話機能」に影響を与えるものと与えないものがある。与えるものは、従来の先行研究では「必須の「ネ」と見なされるものである。
- [注3] …… Naaksakul (1978) の長音の表記と [ɔ̄] の母音を、[:] と [ə̄] の表記に変更した。
- [注4] …… 「②同意要求」の認定は、①話し手と聞き手の領域に属するか否か、②話し手と聞き手が情報を共有するか否か、③話し手が聞き手に賛意を求めるか否かという3つの条件によって行う (チューシー 2008: 160)。また、「⑤同意表

示」も同様に、賛意を表示する場合、具体的にいえば、聞き手が「私もそう思う」と返答しやすい場合に限られる。

- [注5] …… セントーンスック (1991) は、「確認要求」をする場合は、“NA”は使用できず、“ใช่ไหม” [cháj-máj] を使用すると述べている。
- [注6] …… 次のようなタイ語の確認文は過去の行動の確認であり、確認の積極性が高いため、“NA”を使用できず、[cháj-máj] を使用する。
(例) เมื่อวานคุณกลับบ้านตอนสองทุ่ม (○ใช่ไหม / ×นะ)
múawa:n khun klàp bà:n tɔ:n sɔ̄:ŋ thum (○cháj-máj / × [NA])
昨日は8時にうちへ帰っただろう？
- [注7] …… 「自己注視要求」の助詞“NA”は、話し手が聞き手を配慮する場合は、「カネ」とも訳される。
- [注8] …… 助詞「ネ」が質問文に出現しにくいことは、生天目 (2008) にも指摘されている。
- [注9] …… 例 (22)、(26)–(29) の日本語訳の語順はタイ語と異なるため、文を区分し、①、②のような番号を付け、そのタイ語の部分に相当する訳語を示す。
- [注10] …… 「加重平均率」の算式は、以下の通りである。2は最高加重平均値である。

$$\text{加重平均率} = \frac{(2 * 「×」の数) + (1 * 「△」の数) + (0 * 「○」の数)}{2 * (「×」の数 + 「△」の数 + 「○」の数)} * 100$$

- [注11] …… 本稿の「距離」は文字数で測るのではなく、音声面における時間の距離である。例 (21) 「あなたはね、行きますか。」の「ネ」に長いポーズを後続すれば、「ネ」の出現はより適切になると考えられる。
- [注12] …… チューシー (2008: 165) では、以下のように、文節の種類によって助詞「ネ」の「注視要求」を下位分類している。

	「1.注視要求」	「ネ」の出現可能な文節類
1.1	完結情報注視要求	「②述語句」、「⑧連用節」、「⑫感動句」
1.2	素材注視要求	「①主語句」、「③補語句」、「④主題句」、「⑧連用節」(条件)、「⑯文節中」
1.3	展開注視要求	「⑩接続句」、「⑭フィラー句」
1.4	時間保持注視要求	「⑤連用句」、「⑥連体句」、「⑦引用節」、「⑨連体節」

本研究では、「時間保持注視要求」の「ネ」が出現する「⑥連体句」と「⑨連体節」のみを、出現位置に関するアンケート調査の項目として扱う。タイ人学習者の、「⑤連用句」、「⑦引用節」と助詞「ネ」との使用状況についての調査研究は今後の課題としたい。

参考文献

伊豆原英子 (1992) 「「ね」のコミュニケーション機能」カッケンブッシュ寛子他 (編) 『日本語研究と日本語教育』 pp.159–172. 名古屋大学出版会

大曾美恵子 (1986) 「誤用分析1「今日はいい天気ですね。」「はい、そうです。』」 『日本語学』

5(9), pp91-94.

- ザトラウスキー, ポリー (1993) 『日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの考察—』 くろしお出版
- セーントーンスック, プラパー (1991) 『日本語とタイ語の文末接辞の対照—日本語の「ネ」とタイ語の /na/ を中心に』 筑波大学地域研究研究科修士論文
- 田窪行則・金水敏 (1998) 「談話管理理論に基づく「よ」「ね」「よね」の研究」堂下修司他 (編) 『音声による人間と機械の対話』 pp.257-271. オーム社
- チューシー, アサダーユット (2008) 「独話における助詞「ネ」の伝達機能」『日本語文法』 8(2), pp.156-172. くろしお出版
- チューシー, アサダーユット (2009) 「タイの日本語教育における助詞「ネ」の伝達機能の指導上の問題点」『早稲田日本語教育学』 4, pp.57-69. 早稲田大学大学院日本語教育研究科
- 生天目知美 (2008) 『日本語の会話における「ね」の研究—情報管理と会話管理から見た文中の「ね」と文末の「ね」—』 筑波大学博士論文
- 野田春美 (2002) 「終助詞の機能」宮崎和人他 (編) 『モダリティ』 pp.261-288. くろしお出版
- Bhamoraput, A. (1972) *Final Particles in Thai*. Unpublished M.A. Thesis: Brown University.
- Booppanimit, W. (1996) *Discourse Markers in Casual Conversations of Bangkok Thai Speakers*. (Thesis) Department of Linguistics: Chulalongkorn University.
- Cooke, J. R. (1989) *Thai Sentence Particles and Other Topics*. Canberra: Dept. of Linguistics, Research School of Pacific Studies, Australian National University.
- Naaksakul, K. (1978) *Thai Sound System*. Chulalongkorn University Press.

【例文の出典】

- 『ウォーター』 = 矢口史靖 (2001) 『ウォーターボーイズ』 DVD、東宝
- 『おもひで』 = 高畑勲 (1991) 『おもひでぼろぼろ』 DVD、スタジオジブリ
- 『のど自慢』 = 井筒和幸 (1999) 『のど自慢』 DVD、ポニーキャニオン
- 『Girlfriend』 = มงคลชัย ชัยวิสุทธิ (2002) “เกิร์ลเฟรนด์ 14 ไสวีย์กำลังเหมาะ” VCD
- 『O-Negative』 = วาณิช จรุงกิจอนันต์, ยุทธนา มุกดาสนิท (1998) “รักออกแบบไม่ได้” VCD
- 『Pukupui』 = อุดม อุดมโรจน์ (1990) “ปุ๊กปุ้ย” VCD
- 『SaphaanRak』 = เข้มก ไบสเตอร์ (1987) “สะพานรักสารสิน” VCD
- 『Satang』 = บัณฑิต ฤทธิ์ถกล (2000) “สตาจค์” VCD